

# 支店長の わがまち紹介 第66回



アルカス土浦

## 土 浦 市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接なつながりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県土浦市です。本店営業部部長が土浦市長 中川清氏にお話を伺いました。

土浦市は「筑波経済月報」第14号(2014年10月)第15回の本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本市の魅力や特徴、展望などについてお聞かせください。

### ■「商業のまち」のその先を見据えて

土浦市は東に霞ヶ浦、西に筑波山を望み、歴史が刻まれた城下町として、長年、モノと人が行き交う「県南地域の拠点」という機能を果たしてきました。

しかし、現在、「商業のまち」としての勢いは、年々弱まりつつあります。私はこの状況を真摯に受け止めると同時に、今後のまちづくりにおける大切な視点を見つめ直しています。

それは、「行政だけが頑張るのではなく、これまで以上に市民や企業、他市町村などと連携しながら、本市の魅力さをさらに高めていく」という考えからです。

今回は、2014年(平成26年)10月以降に進化・深化した事業のほか、現在進めている新事業、今後の展望などについて、幅広くお話をさせていただきたいと思っております。



土浦市長 中川清氏



本店営業部部長 山田孝行

### ■土浦駅前のにぎわいづくり

2015年(平成27年)9月、約700人が勤務する本市の新庁舎が、約半世紀ぶりに土浦駅前へと移転し、まちなかに「新しい人の流れ」が誕生しました。

また、2017年(平成29年)11月、土浦駅に隣接した「新図書館および市民ギャラリー(アルカス土浦)」がオープンしました。利用のしやすさから、市民をはじめ多くの方々にご利用いただいております。

「アルカス土浦」は、開館から1年足らずで早くも来館者50万人を達成するという快挙を成し遂げることができました。この数字は、地方都市の図書館としては大変珍しいと思っております。

### ■「りんりんロード結節点のまち」として

本市は、豊かな自然を感じることができる総延長距離約180kmのサイクリングロード「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の結節点のまちであり、土浦駅はサイクリングを目的とした来訪者の玄関口となっています。

その利点を活かし、JR東日本は、土浦駅ビルを日本最大級のサイクリングリゾート拠点「PLAY atré」として2018年(平成30年)3月にリニューアルオープンしました。2019年秋以降には、室内に自転車を持ち込めるホテルが駅ビル内に開設される予定です。



「自転車ツーリング」の様子

本市も年々高まる自転車ツーリングの人気を後押しするため、2019年(平成31年)3月、土浦港に休憩施設と広場駐車場を整備したサイクリストの拠点施設を新設する予定です。

今後もりんりんロード周辺の14市町村をはじめ、茨城県、企業などと連携しながら、自転車に関する様々な施設整備やイベント開催を通じて、交流人口の増加を目指していきたいと考えています。

### ■市長もランナーとして参加するスポーツイベント

本市で楽しめるスポーツは、サイクリングだけではなくありません。例えば、「かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン」は、今年で27回目の開催となり、約23,000人のランナーが集いました。私も市長就任後の15年間、毎年、他のランナーとともに良い汗を流しています。

そのほか、2016年(平成28年)には「水郷プール」をリニューアルオープン、翌年には「川口運動公園野球場(J:COMスタジアム土浦)」を改修しました。来年度開催予定の茨城国体では、このスタジアムで軟式野球などが開催される予定です。

### ■全校で「小中一貫教育」を展開

駅前のにぎわいづくりをはじめ、りんりんロードの活用、スポーツイベントなどを通して、多くの方に本市の魅力をたくさん感じていただいていると思います。

しかし、まちの魅力づくりを一過性のイベントだけに頼るのではなく、将来を見据えた「持続性のあるまちづくり」を展開していかなければなりません。

そこで、本市はまちの未来を担う子どもたちへの教育事業に力を入れています。予算においても教育費には多くの予算を配分しているなど、教育は重要な事業だと位置付けています。

例えば、ICT教育は研究のまち・つくば市より先進的な取り組みを展開していると自負しています。また、猛暑で話題となった小中学校の普通教室への冷房設置は、全校で完了しています。

また、2018年(平成30年)4月から、「小中一貫教育」が全校でスタートしました。新治地区においては、市内初の施設一体型小中一貫校となる「新治学園義務教育学校」も開校しました。



「新治学園義務教育学校」の様子

9学年となる小中一貫教育は、「学びの連続性」を高めるとともに、「中一ギャップ」の減少にも効果が期待できると考えています。

そのほかの新規事業として、老朽化した2つの給食センターを統合した新しい給食センターを整備しています。今後、同センターが中心となり、アレルギー対策や食育を進めていきます。

また、子どもたちの登下校見守り活動などを行っている「自主防犯活動(防犯パトロール)」の組織率は、本市が県内1位です。このように、確かな防犯環境が整っていることも本市の自慢の一つです。

## ■市内10校が合同開催「学祭TSUCHIURA」

本市は、高等学校の数が多いという特徴をもち、「高校生が多く行き交うまち」でもあります。「アルカス土浦」などで、勉強に励む高校生の姿を見かける度、心の中で応援しています。

2018年(平成30年)10月、「第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)」内で実施された「学生会議」では、市内の高校生が環境に関する独自の研究成果を堂々と発表しました。

また、11月には、市立図書館の開館1周年を祝う「図書館フェス」の企画として、市内10校の高校が参加する「学祭TSUCHIURA」を開催します。初回は行政が音頭を取りますが、来年以降は市内の高校生たちが主体となり、イベントを盛り上げてほしいと願っています。



「学祭TSUCHIURA」の様子

そのほか、近年では青年会議所(JC)や土浦商工会議所青年部(YEG)などが中心となり、若い力でまちをさらに盛り上げようとする機運が高まっていることも、大変心強く感じています。

## ■定住人口の増加に向けて

様々なイベントが盛り上がる中心市街地では、現在、2棟の新築マンションが建設予定です。完成後は約157世帯、約330人の人口増加を見込んでいます。

本市は東京から約60km圏内で、特急電車を利用した場合、上野駅まで最短41分です。2015年(平成27年)3月には、常磐線「上野東京ライン」が開業し、東京駅や品川駅まで乗り換え無しで行くことが可能になりました。現在は運行本数も大幅に増え、さらに利便性が高まっています。

土浦駅が始発の直通電車の場合、乗客は確実に席を確保できるため、東京方面に通勤・通学する方々にとっては大変魅力的に映ると思います。

「昼間は都内で働き、夜や休日はゆっくり土浦で過ごす」という生活スタイルを提案することで、定住人口の増加につなげたいと考えています。

また、本市は、市民が安心して暮らしていくための医療環境も充実しています。近年、医師や看護師不足が叫ばれていますが、(独)国立病院機構霞ヶ浦医療センターでは、多くの医師を確保するなど、医療の質の向上に期待が高まっています。

市民の1番の望みは、「安心、安全な暮らしができるまち」です。その想いを形にするため、今後も様々な施策を展開していきたいと考えています。

## ■「一歩進んだ市民との協働のまちづくり」

本市は、「市民が今後も住み続けたいと思われれるまち」へと発展していくために、2018年度から「第8次土浦市総合計画」をスタートさせました。

本計画を進める際、多様化・高度化する市民のニーズに対して的確に対応できるようにするため、「一歩進んだ市民との協働のまちづくり」を進めていきたいと考えています。

「市民ができることは市民が、地域ができることは地域が、行政ができることは行政が担うこと」、そして、「その場所、その時代に合う施策を市民とともに検討し合い、支え合いながら実行すること」が、今後のまちづくりを進めていくための重要な姿勢であると考えています。

## ■筑波銀行に期待すること

山田本店営業部部長の「土浦市中心市街地活性化協議会」への参加をはじめ、「土浦市まちなか定住促進事業」支援商品の取り扱い、市民が図書館を利用するきっかけとなる「図書通帳」の導入などにご協力をいただき、大変感謝しています。

今後も筑波銀行には、中心市街地まちづくりやサイクリングに関する取り組み、人口減少対策や地域経済の活性化に資する社会貢献活動など、企業としての社会的責任を果たす姿に大きな期待を寄せています。

取材日：平成30年11月20日  
写真提供：土浦市